

# 活動ノート



9月12日(土)

アカマツ林整備

13:30~15:30



◆参加者：榑、静間、林、吉田、川上、鎌田、川内、岩田(健・共)、新地、神田、吉田、雪丸、井上、今林、村上、知念、毛利 計18名

◆内容：うん・え～会終了後にアカマツ林の遊歩道周辺の草刈りをしました。7月12日以来の久しぶりの作業でした。今日は、アカマツ林遊歩道周辺の草刈りと近隣の萌芽枝の除伐ということで、参加者も多かったので、4～5名の班で区域を分けて作業に取り掛かりました。夕方から雨の予報で、湿度が高かったので作業中に汗が出て疲れました。しかし、久々の作業で皆さん頑張ってもらい、予定どおりに遊歩道周辺が綺麗になり、アカマツ林を散策される人が良い気分になるのではと思いました。作業終了後、A地区に置いていた残材を炭焼き小屋まで運び終了しました。

【ふりかえりより】

・今回は久しぶりの除草作業で大変でしたが、きれいに出来たので良かったです。(毛利)

・手入れをするとキレイになり、

手入れが継続されることの重要度を感じました。(岩田)

10月4日(日)

アカマツ林除伐

9:30~16:30



◆参加者：松雪、榑、林、川上、岩尾、鎌田、静間、橋本、川内 計9名

◆内容：ミーティングに先立ち、新しくできた森会の幟や腕章のお披露目がありました。幟は「さすがプロのデザイン」とうならせる素晴らしい出来栄で、秋晴れの空に緑がひるがえる様は森会のイメージを彷彿とさせるものでした。ミーティングや道具準備を終え、10時過ぎにはアカマツ林での作業に着手しました。今日の作業は、3班に分けての作業としました。榑班は、E地区において径15cm以下のリョウブやクロガネモチ、ネズミモチ等の小～中径木を7～8本程度除伐しました。急斜面での作業で、足場の確保や伐材の遊歩道までの引き上げにはかなり苦労しました。静間班は、D地区の径30cm強のスタジイを除伐することとしました。まずはスタジイ周辺をきれいに整理し受け口切りに午前中一杯、午後から追い口切りにとりかかり、2時過ぎには伐倒が

できました。その後の材処理は全員で奮闘し3時半過ぎまでかかりました。鎌田班は、A～C地区で、萌芽枝や丈の高い草を刈る作業を行いました。急斜面上での中腰作業であるため、思った以上にシンドイ作業となりました。なお、今日の作業でいつも休憩しているB地区の広場からE地区が見通せるようになり、徐々にアカマツ林らしくなっています。これからも「マツタケ狩り」の夢に向かって頑張っていきたいと思っています。

【ふりかえりより】

・径30cmのスタジイを3人がかりで伐採、やはり屋外の作業は楽しいです。(林)

10月18日(日)

安全講習

9:30~15:00



◆参加者：鎌田、榑、林、国広、橋本、岩尾、静間、新地、村山、毛利、井上 計11名

◆内容：今日は、ミーティングルームでカブトムシの森とアカマツ林の五か年計画の説明と伐倒の準備、手順、安全対策について説明し、作業の目的や意味を学びました。実作業については「森づくり安全技術マニュアル」森づく

り安全技術・技能全国推進協議会編を使いました。次に、道具の準備、体操を行った後、アカマツ林に移動し、鎌の使い方と実習を行いました。昼食後は実際にヤマモモ、クスノキを解説しながら、準備、周りの状況把握、伐倒方向を決め、受け口、追い口を入れ伐倒しました。最初の木は掛かり木になり、ロープと滑車を使い安全に倒せました。適切な手順をとらないと危険な作業となる場合もあるため、今回のような勉強会は大切だと思います。分っているようで忘れてることがいっぱいなので伐倒をする際には、皆で手順を確認しながらの作業をしていきたいと思います。

#### 【ふりかえりより】

・安全に作業するには皆が共通認識することが大事だなと思いました。(新地)

11月8日(日)

カプトムシの森整備

9:30~15:40



◆参加者：川内、鈴木、国広、橋本、吉田、井上、吉田、今林、林、榎、松雪、静間 計12名

◆内容：本日は、クヌギ間伐と萌芽枝処理などを行い、楕木の確保と下層植生の整備を行うこととした。雨の予報でどのくらい集まるか心配でしたが、12名の参加となりました。A地区で3班に分れて作業開始。午前中1班は休憩小屋横の隣接する2本の内1

本を、2班は飼育小屋下の変形木を伐りましたが、何れも背の高い木で慎重な作業となりました。3班はB地区との境界付近で枯損木、常緑広葉樹などの除伐をしました。1班はかかり木となり、新たにスコップなどが必要となりました。午後、1班はかかり木の処理と新たに湿地上部のクヌギ1本、2班もその隣のクヌギを1本伐採、3班はB地区から上りはじめた辺りでクヌギ2本、飼育小屋裏のアカメガシワ1本を伐採しました。アカメガシワは斜面上部で道路脇でもあったので、監視係をおいて安全に配慮しながら作業を進めてうまく倒せました。

#### 【ふりかえりより】

・初めてかかり木のリカバリー作業を体験して、如何に大変かを感じました。(橋本)

11月21日(土)

かんたん炭焼き体験

9:15~15:45



◆参加者：鎌田、岩尾、川内、富永 計4名

◆内容：森会の活動をとおして、森林の利用を参加者に楽しんでもらうことを目的に「第2回森を育てる入門講座」として、自然観察センター主催で一般参加者23人の参加で行われました。始めのオリエンテーションで、遊ぶことで「アカマツ林を守る体験をしよう!」というテーマをかかげ、

まずはビデオにより森会の活動の実際を見てもらいました。続いて、活動説明会で恒例のネイチャーゲーム「はじめまして」でアイスブレイク。緊張がほぐれたところでアカマツ林へ。鎌田さんによるアカマツ林の案内後、除伐した雑木の枝を参加者と一緒に運搬して薪作りをしました。運搬は2往復もすると充分な量に。皆でノコギリを使って短く切りそろえ、束ねて完成。キャンプ場まで子供たちが薪を積んだリヤカー引きをがんばりました。キャンプ場に到着したらとりあえず昼食。昼食後は炭焼き素材を缶に詰めます。今回は缶に隙間なく詰める方法で実施。たくさん詰め込んで缶内の空気を押し出します。缶を針金で十字に縛って、続いては火起こし体験をしてもらいました。富永さんに指導してもらいながら、松葉やスギの葉の上に小枝を積んで、マッチで着火体験。何回かトライするうちに上手に火がつかまりました。缶を火にくべると、時間があるので、あとは思い思いに焼き芋をしたりツルかごを編んだりしました。炭焼きは、例年よりいっぱい詰め込んでいるから、火力も時間もかかりました。1時間ほど焼いたあと、煙の色が透明になりフタをあけると、生焼けもありましたが、半分くらいは成功でした。完成した飾り炭は、竹の輪切りやツルかごに入れて持って帰ってもらいました。子供たちは楽しかった!と言ってくれたので良かったです。

#### 【ふりかえりより】

・小学生と母親と企業から3人参加。にぎやかで楽しい炭焼きとなりました。とても良かったです。(川内)